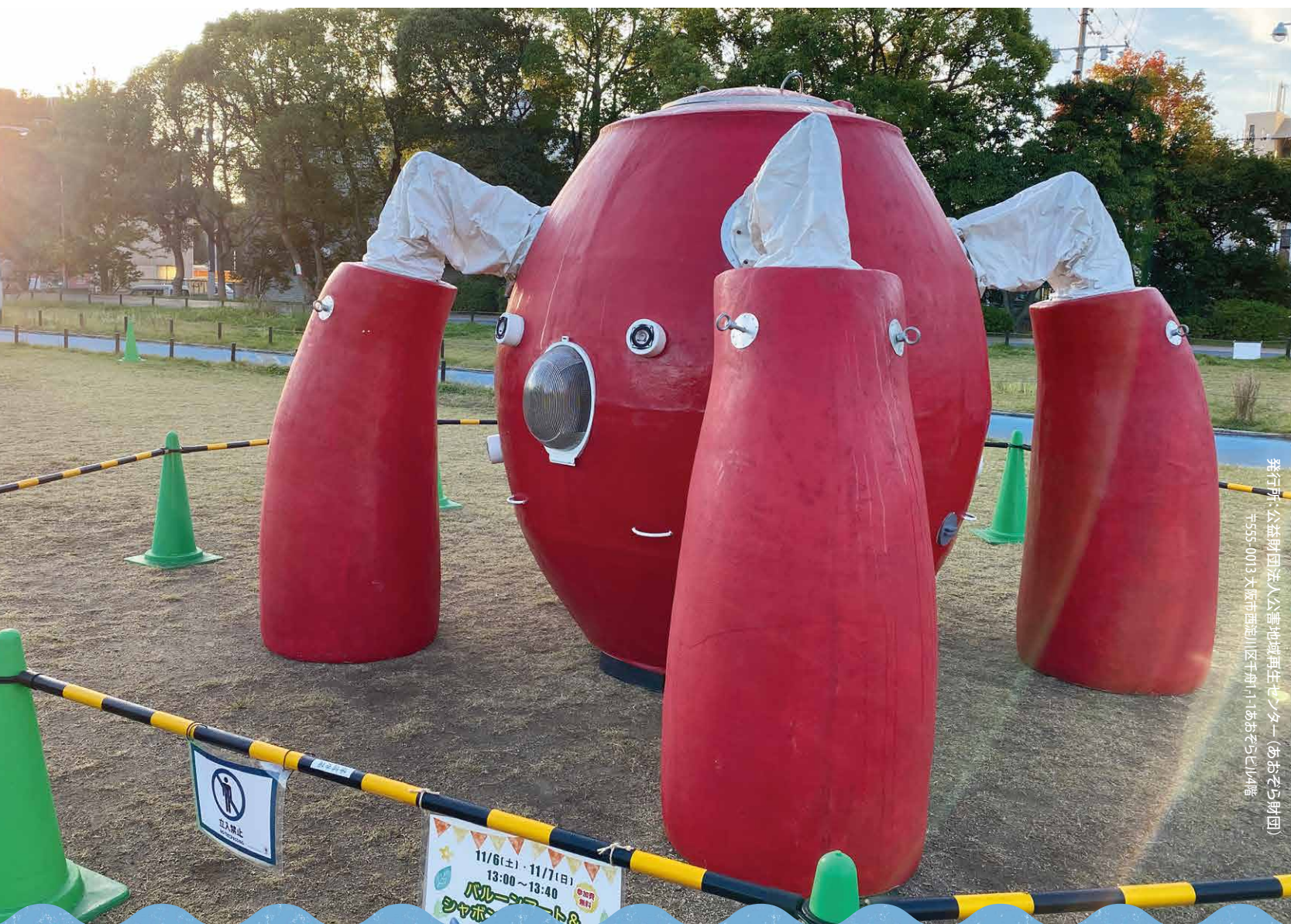


Libella りべら

持続可能な未来をみんなでつくる

vol.158
2022.04

りべら vol.158 2022.04



発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪市西淀川区千船1-1-18 あおぞらビル4階

特集 食から考える環境と安全

食は豊かになっている!?～食を取りまく課題…1

「食べる」は元気のもと
～子どもの居場所活動から見る食と環境～ 西川奈央人…3

「もったいない」がつなげる支え合いの輪
ドラ☆パンにしよどのとりくみ 福田留美…4

「助けて」と言える地域へ！西淀川フードバンクのとりくみ 園部健史…5

わたしが手渡したいものは一食と環境を考える 岩本真由子…6

COP26グラスゴー会議参加報告 伊与田昌慶…7

第8回公害資料館連携フォーラム in 長崎の参加報告…8

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり／おもしろい西淀川…9

あおぞら財団教育・研修事業紹介／エコミューズ所蔵資料紹介…10

ミサゴの思い 橋に歴史あり！一橋でつながる西淀川…11

〈表紙の作品〉
村岡 亮「TOWER OF DISCOPIA/VIMANA」 大野川緑陰道路に巨大アートが出現！
みてアート2021〈緑道アートギャラリー〉にて作品展示（2021年11月3日～7日）

あおぞらフォトギャラリー



環境学習
第9回淀川環境美化・西淀川親子ハゼ釣り大会～SDGsをはじめるさいしょの一步～が無事に開催！参加者72名がそれぞれ釣果を競い、優勝者のハゼは16.5cmでした。（2021.10.2）



環境学習
矢倉海岸・緑陰道路 探鳥会を実施。様々な年代の23名の方が参加。この日はアオサギ、ダイサギ、ミサゴ、トビなどを観察できました。（2021.10.2）

お知らせ

釜石市から東日本大震災の支援に伴う感謝状をいただきました

このたび、あおぞら財団に釜石市より東日本大震災からの復興支援に対して感謝状が届きました。ありがとうございます。



あおぞら財団では、これまでに「遠野山・里・暮らしネットワーク」様に廃食油BDFで走るワゴン車の寄贈、被災地の缶詰の販売、被災地へのエコツーリズム体験ツアー、「三陸ひとつなぎ自然学校」への寄付などを行ってきました。東日本大震災の教訓をしっかりと学び、いかしていかなければならないと、感謝状を前に身が引き締まる思いです。



まちづくり
大阪市立大学「都市基盤計画特論」の授業が行われました。タンDEM自転車でのフィールドワーク、公害患者さんや区役所のヒアリングの後、まちづくりの提案をしてもらいました。（2021.11～22.3）



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判（1978～1998）では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

【あおぞらビル】

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコパ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。

午前：1,000円／午後：1,300円／夜間：1,300円／全日：3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。（環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設）

開館日 月曜日と金曜日（10:00～17:00）／要事前電話予約

※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。

【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、法人・団体：年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

【郵便振替口座】記号・番号：00960-9-124893／加入者名：あおぞら財団
【ゆうちょ銀行】金融コード：9900／店番：099／預金種目：当座
／店名：0九九店／番号：0124893／名義：あおぞら財団

【三菱UFJ銀行】歌島橋支店／普通／372858／（財）公害地域再生センター
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

りべら（Libella）はラテン語で「トンボ」と「自由」の意味をかけたものです。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。



食から考える
環境と安全

食は豊かに

なっ て い る !?

食を取りまく課題

30年前の筆者が子どもの頃、効率的な農業が実現し、タブレットなどの完全栄養食によって、飢えて苦しむ人はこの世界からいなくなるーそんな未来予想図が子ども向けの冊子には描かれていました。しかし、実際には、食の問題は複雑さを増し、解決できていないまま山積みです。

この特集では、食と環境と社会を取り巻く問題の一端に焦点を当てました。

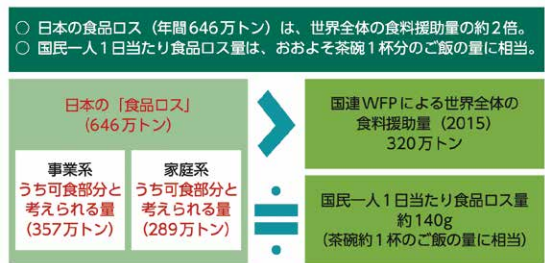


図 日本のフードロスの量(出典:平成30年度 環境・循環型社会・生物多様性白書)

大量の食品ロスを生んでいます。この量は、日本国民1人あたり毎日130gお茶碗一杯分の量を捨てているとも言えます。日本のフードロスの原因は大きく分けて2つ。一つは小売店での売れ残りや返品、飲食店での食べ残り、売り物にならない規格外品といった事業系食品ロス(約300万トン)、もう一つは家庭での食べ残しなどが原因の家庭系食品ロス(約300万トン)です。

食をめぐる戦い
「フード・ウォーズ」

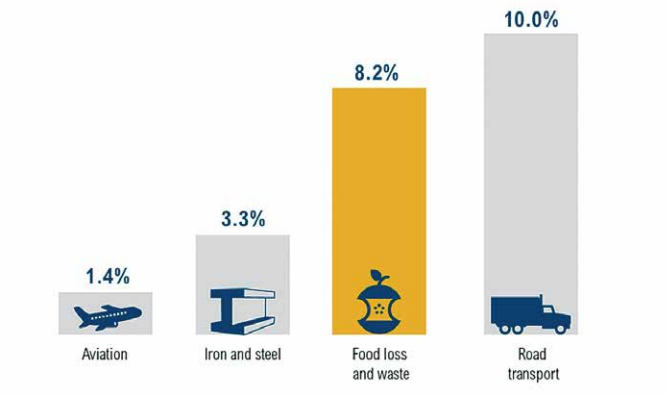
今、食をめぐる戦いは、品種改良・機械化・農業・化学肥料依存、食品加工の高度化、大量生産・大量輸送技術の進歩、グローバル化の進展によって豊かになる一方で、危機的な状況に陥っています。例えば、世界人口の1割を超える人が飢餓で苦しんでいる、その一方で過剰な飽食と肥満の増加、食品パッケージやフードロスなどの廃棄物の問題、環境破壊などによって、持続不可能となってきました。

今は、フード・ウォーズの時代ともいわれています。産業化を進めるなかで最新生命科学の手法を駆使して問題解



世界の温室ガスの34%を
フードシステムが排出

気候変動の抑制というと、発電や飛行機や自動車などに対する対策を思い浮かべる人が多いと思います。食品ロスはそれらに匹敵するほど多くの温室効果ガスを排出しています。



SHARE OF GLOBAL GREENHOUSE GAS EMISSIONS (2011/12)*

* Sector data is for 2012 while the food loss and waste data is for 2011 (the most recent available). Since the food loss and waste data combines emissions from various lifecycle stages of the food that is ultimately lost or wasted (e.g., road transport, landfills), the food loss and waste figure should not be added to the sector figures in order to avoid double counting.

Source: International Energy Agency (IEA), 2014. CO₂ Emissions from Fuel Combustion (2014 edition), Paris: OECD/IEA; WRAP, 2014. Strategies to achieve economic and environmental gains by reducing food waste. Banbury, UK: WRAP; FAO, 2015. Food waste footprint & climate change. Rome: FAO.



WORLD RESOURCES INSTITUTE

図 食品ロスから排出される温室効果ガス(出典:World Resources Institute)

また、2021年に発表された研究によると、食品の生産、輸送、加工、包装、小売、消費、廃棄など食に関するすべての活動を指す「フードシステム」に話を広げると、世界の温室ガス排出量の34%を毎年排出していることが明らかになりました。

道筋を見出していく方向(ライフサイエンス主義)、個々人の健康と環境とのつながりを自覚するライフスタイルを尊重して社会関係や自然調和による自律的な再編方向(エコロジー主義)の2つの方向性が対峙している状況です。

飽食の一方で「食の貧困」
が起きている

世界で生産されている穀物の量は26億トン。もし、世界中で生産されている食物を平等に分配すれば、すべての人たちが十分に食べられるだけの食べ物十分生産されています。それにも関わらず、飢餓に直面している人たちが多数います。

日本国内でも「食の貧困」は、コロナ禍でより深刻化しています。そうだった人たちが支援する取り組みとして、子ども食堂やフードバンク、フー

ドパントリーなどが行われています(p35で紹介)。

「食の貧困」は途上国だけでなく、経済的に豊かな国でも起きています。なぜ「食の貧困」が起きるのでしょうか?

途上国では、農業を営んでいるのに、農作物が安く買い叩かれ、そのために食や生活を支えきれなくなっているということが起こっています。

一方、日本では職を失ったり、あるいは様々な事情により安定した収入を得ることができないために、食や生活に困っている人が多数いますが、そうした人々への、公的な支援は十分でない状況です。

日本では一人あたり毎日ごはん一杯分を捨てている!!

日本国内の食料自給率は37%(2021年)と低く、6割もの食料を輸入しているにも関わらず約600万トンと

日々の食事の積み重ねが
世界を変えるかも

食をめぐる問題に対して、私たちには何ができるのでしょうか?

例えば、「食の貧困」に取り組む団体に対する寄付・支援という方法があります。いずれもボランティアな活動であり、人手も資金も必要としています。

もう一つは日々の生活の見直しです。例えば、ファーストフードではなくスローフードを心がける、身近な地域で取れた低農薬・有機野菜を購入する、フードロスを減らすためにペットボトルや食品包装が少ない食品を買うなど。どんな行動がより環境に良いのか、世界をよりよくするのか考えてみましょう。

私たちは毎日食事をせずに生活することはできません。日々の食事の積み重ねが、世界を変えることにつながるかもしれません。⑥

参考

令和3年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書/古沢広祐:「食・農・環境とSDGs」、農山漁村文化協会、2020/平賀緑:「食べものから学ぶ世界史 人も自然も壊さない経済とは?」、岩波ジュニア新書、2021/Future Earth:「世界初の研究:食品の生産とサプライチェーン全体のCO₂排出量が明らかに」<https://futureearth.org/2021/06/23/>/井出留美:「食品ロスは温暖化の主犯格? 知られざる気候変動との関係」<https://www.asahi.com/sdgs/article/14444362>

「食べる」は 元気のもと



～子どもの居場所活動から見る食と環境～

NPO法人
西淀川
子ども
センター



西川 奈央人さん

プロフィール

NPO法人西淀川子どもセンター代表理事。

西淀川在住。2児（2歳と3歳）の子育てにも奮闘中。



西 淀川子どもセンターは、「子どもが気軽に相談に寄れる場所」を地域にと、保護司や子ども虐待防止活動をしていた前代表と数人の仲間が2007年に発足しました。公園でパラソルを立てて呼びかけるところから始め、文庫やてらこや（学習支援）をしながら、自由に遊びに来れるように事務所を開放しました。一方で、子どもが安心して大人と関われる場所を作

るために、地域の大人に向けて講演・勉強会等の啓発活動もしてきました。
毎週一緒に遊んだりする中で、いつしかいろんな子どもが沢山来てくれるようになりましたが、夕方事務所を閉める時に、なかなか帰りがたらない子どもたちに何人も出会いました。「家に帰っても誰もいない」「ご飯もない」「今からゲーセン行こう」等の会話を聞き、子どもたちの夜の過ごし方が気になり、2013年に「いっしょにごはん！食ベナイト？」という夕食の作りを始めました。当時はまだ「子ども食堂」という言葉もなく試行錯誤しながら始めて、現在は週1回夕方に集まり、ボランティアと一緒に買い出し・調理・食事をし、遊んだり宿題をしたりして過ごしています。子どもが気軽に話せる若い世代や、様々なことを教えてくれる熟年世代もいるので、家族や先生とは違う多様な大人と出会う場にもなっ

ています。
現場では「食べることは元気の源（もと）」だと、よく実感しています。夕方に来て「さっき起きた」「朝から何も食べてない」と力ないつぶやきをよく聞きます。子どもの個性も事情も一人ひとり違いますが、食べていない時の子どもは、機嫌がよくない食欲も続きません。学校を休みがちの子は、ゲーム依存傾向で昼夜逆転し、食生活のありようが心配です。「家では料理は全然しない」という子どもも多く、食べ物好き嫌いやこだわりが多かったり、おかわりをしても食べ残したり、いろんな子がいます。でも、みんなで一緒に楽しんで過ごすうちに、苦手な野菜等を少し食べてみたり、自分の食べる適量が分かったり、笑顔が増えたりと、ちょっとした変化も出てきます。子どもたちの食への広がりは、周りの人との関係性がとても大きいようです。このような経験を、いずれ子どもが大人になった時に懐かしく思い出したり、食べ

物を大事にできたり、1つでも自分でできる料理があったり等の自信に繋がれば嬉しいなと思っています。

現在、全国に子ども食堂が増えている（約6000箇所）中、2019年には西淀川区内での子ども食堂や子ども支援団体（計13団体）が相互に連携・協力できるように「西淀川こどもネット」を発足しました。コロナ禍の為、協働イベント等は困難ですが、定例会議でお互いの状況と課題を共有したり、食料品・日用品などの寄付物品を各団体で分配したりする協力体制がそれぞれで努力で深まっています。最近では、SDGs・フードロス問題に取り組んでいる企業・団体からの物資支援も多くなり、各現場で活用させていただき、子どもたちの家庭にも配布させていただいています。



西淀川こどもネット/

“点在からつながることで、子どもたちの受け皿と渡し舟の役割をできるように”と想いをロゴに込めました。

「会食」のコロナ感染リスクが特に高いとされる今、感染対策と今後の活動内容に苦悩しています。いろいろな制限が長引く生活の中で、子どもたちが「いまが好き」と感じて、少しでもびやかに過ごせる時間を願って、お互いの知恵と工夫を寄せ合い、見通しのつかない状況を乗り越えていきたいと思っています。
「だいたいぶだよ」と、周りの子どもたちへ励ましと見守りを、みなさんどうぞよろしくをお願いします。

「もったいない」がつなげる支え合いの輪 ドラ★パンにしよどがわのとりくみ

ドラ★パンにしよど運営委員会/にしよどにこネット 福田留美

フードロス問題と貧困課題の解決に向けた活動を西淀川区でも！と考えていたタイミングで、企業から災害備蓄食品をご寄付いただいたことがきっかけ。西淀川区社協/子ども食堂くるる/にしよどにこネット協働で「ドラ★パンにしよど運営委員会」を立ち上げ、～「もったいない」を「ありがとう」に～地域みんなで支え合いの輪を広げることを目指して活動しています。

定期的にご家庭の余剰食品や事業所等からの備蓄品を集める「フードドライブ^{*1}」を行っている他、こそだてひろば、子ども食堂、お寺、医療機関等に「ありがとうBOX」設置協力が広がっています。集まった物資は、「フードパントリー^{*2}」で必要とする家庭に手渡します（無料）。2021年度は4回開催し、延べ166家庭にお届けしました。

今後も、この活動が地域の身近な存在となり、誰もが支えあえる活動として、ボランティアスタッフ、BOX設置協力拠点、活動資金の寄付等を募集中。



^{*1}フードドライブ：各家庭で使い切れない未使用食品を持ち寄り、それらを地域の福祉施設・団体などに寄贈する取り組み

^{*2}フードパントリー：生活困窮者やひとり親家庭など何らかの理由で十分な食事を取ることができない状況の人々に食品を無料で提供・支援する取り組み



稲刈り。黄金色に実っています。すでにおいしいそう…(?)

わたしが 手渡したいものは— 食と環境を考える



食べない人は、いません。しかし、その当たり前の営みに伴う「フードロス」が、今、気候変動の大きな原因となっていています。食べられないまま捨てられる「フードロス」は、生産、運搬にかかったエネルギーが無駄になり、ゴミとして処理されるときにも温室効果ガスが排出されます。何より、食べ物はいのちだったものの、フードロスとしてそのまま捨ててしまうことは、なんとも心苦しいものです。

私は普段、奈良や兵庫で持続可能な暮らしをめざす「パーマカルチャー※」という活動について研究しており、現地調査も行っています。小さな畑でトマトや大根、いちごなど多種類の有機野菜を育てたり、自然農の手法を学び、皆で稲作をしたり。日差しの強い真夏でも、濃い緑の山々に囲まれて手を動かすと、とても爽やかな気持ちになります。集まりの最中は世間話に混じって、畑の土づくりの相談や、脱プラスチック生活の工夫話に花が咲きます。ご飯には、育てた新米や、畑で育てたとれたての白菜、リサイクル食品で育てられた地元のお肉、おすそ分けのキノコで作られたお鍋をいただきます。新鮮でおいしく、少しでも自分がかかわったことで、食べる喜びもひとしお。余さずいただける事間違いな

しです。参加者の中には、ほぼ自給自足の大きな畑を持つ方、狩猟や養蜂を行う方もおられますが、皆仕事や生活の合間に、無理なく楽しく活動されています。

また、あおぞら財団主催の朝市、あおぞら市で買ったものは、普段何気なく買うものより大切にいただけたと感じています。すてきな商品であることに加え、その時出会った売り手の方々が、商品を大切にされていると感じたからです。思いがこもっていると分かるものや、自分が気に入ったものを買うのも、確実においしく消費するための工夫かもしれません。

出会った皆さんの活動を見ると、私たち一人一人に、無理なく取り組めることがあると感じられます。たとえば全体の半分を占める家庭由来のフードロスを減らせば、身近な環境問題対策になります。買わずに使い切ることや、割引シールの商品を買うこと、持続可能な農法で作られた野菜を買うこと、お肉であれば鶏肉は環境負荷が少ないほうとされています。運搬距離が短い近所でとれたものも環境にやさしく、大気汚染の原因となる、車の排気ガスを減らせるという点でも安心です。

もし、このまま気候変動が進むと、安

岩本 真由子さん

プロフィール
大阪生まれ、愛知育ち。大阪大学人間科学研究科共生学系に在学中。人と自然との共生を考えるべく、持続可能な農的暮らしを追求する「パーマカルチャー」活動を行う人々に混ざりながら、調査研究を行っている。



冬の田んぼ。来年に向けてゆっくりお休み中です。



多くの稲が収穫後機械乾燥されますが、こちらでは昔ながらの天日干し。やっぱ、おいしい！

※パーマカルチャー：永続的、農業、文化を組み合わせた言葉。人と自然が共に豊かになるような関係を築いていくためのデザイン手法。

「助けて」と言える地域へ！

西淀川フードバンクのとりくみ

西淀川区フードバンク実行委員会事務局長 園部建史

西淀川食料無料市場(以下、フードバンク)は、長引くコロナ禍で“助けて”と声に出せない人たちの掘り起こして、物理的な支援と生活再建の手立てを共に考える場が必要ではと思ったのがきっかけではじまりました。西淀川区内の医療や介護事業所、社会福祉法人、子ども食堂、学童保育、市民運動団体等で実行委員会を結成し、行政や地域コミュニティの要所、企業、市民生協、農民連等に協力を働きかけ食料や日用品等も提供していただきました。そして、昨年1月に第1回を開催してから年末までに6回開催し、のべ2,530名の方が利用されました。

大規模なフードバンクだけでなく、日常的な支援を継続していく必要性を感じ常設会場を設置。より身近で困っている人にフードバンクを利用してもらうために、地域密着型のミニフードバンクも5ヵ所で開催しました。「ご家庭で余剰となっている食料や日用品費の提供」を呼びかけたところ、地域住民の方から多くの品物を寄贈していただいております。フードバンクはフードロスを無くす取り組みとしても意義あるものと感じています。

来場者の中でも積極的な支援を必要とする人を相談コーナーへ繋げることとコロナ対策も含めて、2回目から来場者アンケートに取り組んでいます。アンケートを通して、①どの世代でもコロナ禍を契機に生活困窮度合いが増し、精神的苦痛や不安を感じていること、②生活の糧が絶たれた時のセーフティーネット・生活保障制度の拡充が必要であること、③権利としての生活保護を、誰もが気兼ねなく利用できるようにすることが求められていると判りました。

コロナ禍による生活困窮者支援活動を通して、“自助”や“自己責任”が声高に叫ばれ、“助けて”と言えない時代に、社会的孤立が広がるなか、地域でこれまでの枠を超えて、様々な団体、個人が“いのち”と暮らしを守る新しい連帯をつくるとりくみを広げることの重要性が増していると考えます。そして何よりも、いのちや一人ひとりが大切にされる政治への転換が求められているのではないのでしょうか。

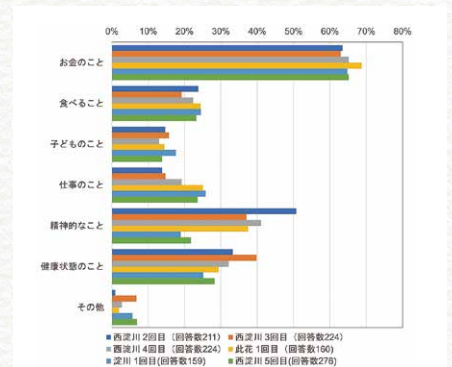


図 現在困っている内容(複数回答)





COP26グラスゴー会議(撮影:伊予田昌慶)

グラスゴー会議 1.5℃目標をめざす

新型コロナウイルスのパンデミックによって延期された気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)が、2021年に英国グラスゴーで開催されました。議長国イギリスの呼びかけで、脱石炭・脱化石を宣言する国や地域が広がり、コストリカとデンマーク両政府によって設立された「脱石油・脱ガス

国際連盟(BOGA)も注目されました(残念ながら日本は脱石炭・脱化石の宣言にもBOGAにも参加していません)。COP26は、「パンデミックでも気候変動対策の先送りは許されない」との意思を示しましたが、ワクチン格差で途上国代表の参加が限られ、NGOの会議傍聴も十分に認められず、人権と透明性への懸念が強まったCOPでもありました。

11月13日、COP26は「グラスゴー気候合意」を採択し、閉幕しました。この合意は、パリ協定の「2℃目標」を超え、1.5℃未満をめざす決意を打ち出しました。さらに、各国に対して2030年までの温室効果ガス排出削減目標を2022年末までに見直し、強化するよう要請しています。合意の中で石炭火力発電の削減や化石燃料補助金の廃止に言及したのはCOP史上初のことです。

科学者によれば、現行政策の延長線上では産業革命前からの気温上昇が2.7℃にもなると見込まれ、まったく1.5℃には足りません。2022年に各国政府が気候目標と脱石炭・脱化石対策の強化に誠実に取り組む必要があります。

グラスゴーにおける日本と今後の課題

2019年のCOP25で小泉前環境大臣は「日本がCoal Japan(石炭の日本)ではなくRE Japan(再エネの日本)」と呼ばれるようにとスピーチしました。しかし、COP26で演説した岸田首相は、日本の国民による石炭火力発電推進を見直す意思を示しませんでした。逆に、高コストで、2030年までに普及が間に合わず、排出削減効果の見込めない水素アンモニア混焼をアジア諸国に広げるとしました。

この演説に対して国際NGOネットワークから「本日の化石賞」が贈られました(化石賞は、気候変動交渉・対策に最も後ろ向きな国に贈られる不名誉な賞)。

COP会場前では国際NGOのメンバーが扮するピカチュウたちが日本の国民に対して脱石炭・脱化石を求め、抗議していました。



日本に脱石炭を求める国際NGO(撮影:No Coal Japan)

日本政府は、温室効果ガス排出削減目標のさらなる強化の検討と、脱原発とあわせた脱石炭・脱化石ロードマップの策定を急ぐ必要があります。これらの検討プロセスでは、ユースや市民を含む包摂的な市民参加を確保すべきです。さもなくば、今年11月のエジプトCOP27において、再び国際的な批判を受けることになるでしょう。

プロフィール

1986年愛知県生まれ。京都大学大学院地球環境学舎修士課程修了。2011年より気候ネットワーク勤務。2022年より国際環境NGO 350.org JapanでCommunications Coordinator。立命館大学などで非常勤講師。

Masayoshi Iyoda
伊与田 昌慶さん第8回
公害資料館連携
フォーラム in 長崎

環境と平和の重なりを考える場

参加報告

公害を伝える取組みを学び、各地の公害地域再生の取組みを共有することで、公害教育と公害資料館の可能性について議論する場として、第8回公害資料館連携フォーラムが2021年12月11日～12日に長崎においてオンラインも含めて開催されました。

議論を始める場
「フォーラム」としてのミュージアム

「記憶を伝える場としてのミュージアム 一国際的な潮流を踏まえて」とのタイトルで京都国立博物館副館長の栗原祐司さんによる基調講演が行われました。博物館(ミュージアム)には「テンブル」、「フォーラム」の2つの機能があるというお話が印象に残りました。「テンブル」とは、すでに評価の定まった「至宝」を人々が拝みにくる神殿のような場所、一方、「フォーラム」とは未知なるものに出会いそこから議論が始まる場所という意味があります。講演では、ナチスによるホロコーストや大邱(てぐ)中央路駅放火事件展示・追悼施設、ひめゆり平和祈念資料館などの公共に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館が紹介されましたが、いずれも、そこで展示されているものに触れ、展示されている資料が伝えようとする記憶を読み取り、そこからコミュニケーションを始める場になっています。各地の公害資料館も「フォーラム」としての役割を果たすことがのぞまれています。

対話を重視し、新たな広がりも

当日は、長崎原爆資料館、国立長崎死没者追悼平和祈念館のオンラインツアーやオンライン参加者同士のグループ討議など、コロナ禍であっても対話を重視した開催方法が取られました。また、長崎での開催ということで、平和教育の他、大規模な食品公害である「カネミ油症事件」の資料保存・継承活動についても分科会で取り上げられ、新たな広がり生まれたフォーラムになりました。

平和教育と
公害教育の
課題点の重なり

今回は、4つの分科会が開催されました。

その一つの「平和教育と公害教育の課題点の重なりを議論する」を紹介します。

長崎市では、1970年頃に教員が中心となった平和教育が始まりましたが、「学校で被爆証言を聞く機会を設けると校長から政治的な話をしないようにと横槍が入る」など紆余曲折がありました。そうした中でも、現場の先生方は模索を続けながら粘り強く取り組み、生徒が平和教育に主体的に取り組めるような実践を重ねています。また、水俣病の視察・研修受け入れについても話題提供があり、他人事とせず自分事として主体的に子どもが学ぶかを重視されているとのことでした。

平和教育、公害教育のいずれにおいても、世界の潮流や政治の力によって教育内容が左右され、紆余曲折を経てきました。また、いずれの教育においても、現場における学びを大事にし、問題を他人事にせず自分事として考えることができる学びを重視している点にも共通点があります。この分科会を通して、環境や平和のつながりの深さを感じ、人間が起こした負の記憶を未来の世代につなげ、持続可能な社会を作るための教育の重要性が今後も高まると感じました。





大阪市教員向けに動画配信

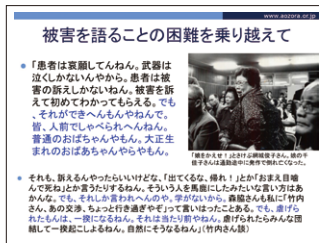


大阪市教育センターの依頼を受け、教職員研修の「大阪市教育フォーラム」の1コマとして「わたしからはじまる人権教育 SDGsの視点をもって考える」と題し講演しました。動画配信の視聴者は116人でした。

講演では、SDGsの持続可能な開発という概念の原点には公害があることを確認した上で、西淀川の大气汚染公害についてお話ししました。患者会の学習会活動や署名運動、NO₂測定運動などの取り組みは、人権を守る運動でもあったと説明。裁判においては、地域再生を掲げ企業に対して地域社会への社会的責任を問

い、道路管理者には交通政策や道路政策は経済発展一辺倒ではなく広く生活全般を考えて行われるべきではないかと提起したことを紹介しました。西淀川の運動が、新たな価値観を提起していったのと同様に、SDGs達成のためにも、新たな価値観の創造と変革が重要です。

担当者からは、「西淀川公害裁判が和解に至った地域再生のビジョンというお話から、『今後どのような社会を創造したいのか』を考えることがみんなでSDGsを考えることにつながるということがわかりました。また、『様々な立場の人がつながって望む社会を形成する』ことを意識していきたいと思います」という感想が寄せられました。(2021.12~2022.1動画配信) (栗)



あおぞら財団 教育・研修事業の ご案内

あおぞら財団では、西淀川の公害の解決に取り組んだ貴重な経験をもとに、環境と人権を重視したSDGs時代の学びをコーディネートします。西淀川公害の歴史はもちろん、地域再生のまちづくり、交通マネジメント、環境と防災といったテーマの研修も展開しています。

◆西淀川フィールドワーク

西淀川公害裁判を経て、公害対策が進められた地域を歩き、青空をとりもどした西淀川の「今」を体感します。公害患者をはじめ、元企業の担当者、行政、弁護士などの多様な語りをコーディネートできます。

〈プログラム料〉

1時間/10,000円(ガイド2人随行を基本。30人以上参加の場合、要追加料金)

◆講演・出張授業

公害患者の出前授業や、財団研究員による講演・ワークショップも承ります。講師料と交通費が必要です。お申込み時にご相談ください。

〈お問い合わせ〉

あおぞら財団 webmaster@aozora.or.jp

あおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館エコミューズ所蔵資料紹介



エコミューズ館長：小田康徳

大野からみた福駅方面の写真

写真は、大野の集落から今は緑陰道路と呼ばれる大野川をはさんで東の方向を見た1956年頃の風景である。写真には大野川を隔てて阪神電鉄福駅や、その右側には当時伊藤と呼ばれた日本化学の工場が増設のためか、足場を組んでいるのが写り、右端には大阪製鉄(後の合同製鉄)の木造2階建て社宅も大きく写っている。日本化学については「煙がすごかった」との注釈が写真裏面に記されている。当時小学校高学年でときどきこの地を訪問していた女性の記憶によれば、川は灰色で、何がいるのかわからなかったとのこと。一方、大野の集落側の川沿いは小さな船着き場だったのか、大人が子供たちと並んで、季節の陽気を楽しんでいるようにも見える。右側の男性は船の中か。当時草むらの中には野生のアヒルが卵を生み、それを探す人もいたという。くつ・ぞうり・はだしといった子どもたちの足回りにも注意してほしい。



農漁村の面影を多分に残しながら、大阪市の北西～西部地域では戦後朝鮮戦争の影響下急速に工業生産力を伸ばしていた。そこでは、無計画に立地した中小の工場を中心に、労働者の住宅・商店などが密集し、地域の姿も農漁村から工業地域へと急速に変貌しはじめていた。行政が空気や水への環境汚染を放置し、都市の公共的な生活基盤への投資をないがしろにしていた歴史を物語る写真と言っている。西淀川公害の歴史的背景でもある。(塚口アキエ氏 資料No.3)



西淀川・公害と環境資料館
エコミューズ利用のご案内

公害や西淀川地域に関する図書や、西淀川公害公害裁判資料、弁護団や患者会・住民運動などの写真や資料等を所蔵しています。ぜひ一度、お越しください。

◆利用案内

開館時間：月・金曜日 10:00-17:00 web: <http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>

ぶらりと ゆるりと 西淀川めぐり

イラスト：とりやま ひろこ

西淀川は障害がある人もない人も共に暮らしやすい地域になりつつあります。今回は障害のある方が働いているお店を紹介します。(谷)

ポノレア



ポノレアは、西淀川区にあるハワイアン雑貨店です。ポノレアでは、どんな商品を作りたいのか、その材料や作り方、値段付けまで障がいのある人が自分自身で決めています。決まりごとは、ハワイアンな雑貨であるということだけ。

ハワイアンダンスをしている代表の富永さんは、障がいがある人に衣装を作ってもらったことをきっかけに、決まりきった作業をする作業所ではなく、障がいがある人が表舞台に出て、個性を生かしてものづくりができる場を作りたいという思いを抱くようになったそうです。それをポノレアで実現しています。

お店には所狭しとアクセサリやバッグ、籠など色とりどりの手作りの雑貨が並んでいます。奥に作業スペースもあり、作っている人の息遣いも感じることができます。

住所：大阪府大阪市西淀川区佃2丁目5-24

営業時間：平日10:00~17:30(土日祝 不定期営業・出店)

TEL: 06-6476-7930

HP: <https://www.ponolea-shop.com/>

Instagram: <https://www.instagram.com/ponolea0401/>



カフェ・ギャラリー ののほな



「ののほな」は「発達支援センターたんぽぽ」が運営するカフェ・ギャラリーです。元々、たんぽぽでは障がいがある人がパンやお菓子を作って販売していましたが、もっと地域の人に知ってもらい、交流したいということで、「ののほな」がオープンしました。

パンやお菓子、手作り雑貨が販売されている他、ランチにワンコインでカレーライスセットを食べることができます。安心・安全な材料で、一つ一つ丁寧に手作りされています。今の一押しは「ののほな『生』食パン」。北海道産小麦100%を使用し、長時間熟成させたこだわりの食パンです。

「ギャラリーとしても活用しています。コロナ禍が落ち着いたら、ワークショップを企画したい」との思いもあるそうです。もっと地域に開かれたカフェ・ギャラリーを目指れています。

住所：大阪府大阪市西淀川区歌島3丁目2-4-109

営業時間：平日10:00~15:00

定休日：土日祝

TEL: 06-6476-5260



おもろいわ 西淀川



西淀川の「おもろいわ」を楽しむ「おもろいわ西淀川」。SNSで発信中です。あなたの「おもろいわ」を#おもろいわ西淀川で投稿してください。みんなで「おもろいわ西淀川」を発掘！



Instagram



Facebook

西淀川区魅力発信サポーター事業と連携 #にしよど #魅力発信サポーターでSNSに投稿して、一緒に西淀川を盛り上げましょう！



◀魅力発信サポーター募集中

「にしよどがアートのまちに！みてアート2021」



みてアート、始めました！

宇宙船、乗れます！

#みてアート2021 #宇宙船

#大野川緑陰道路

(@tomo_y_25)



客室B「おやすみ」

展示部屋には枕があり、畳に寝転がりながら作品を鑑賞できますよ。梯子でロフトに上がり屋根裏から作品を眺めて、ゆっくりおやすみ下さいませ。

#西淀川アートターミナル

#姫里ゲストハウスいこね

(daichinakatani.dn)



みてアート2021 🐞

新しい健康遊具が設置されたのかと近づいたら作品が設置されているところでした。町の中に、外に芸術があるのはいいものですね！

#みてアート2021 #大野川

緑陰道路 #モリソノ #海底

の月 #芸術の秋 #青空の下で

(@sazanqua_home.5 茶梅)





橋に歴史あり！ ―橋でつながる 西淀川―

橋は、川にあるところに架かります。西淀川区においても数多くの川が近辺に流れており、橋も数多く架かっています。また、歩行者・自転車専用道路としての役割を果たしている大野川緑陰道路は、かつては大野川という川でした。現在、大野川は存在していないものの、橋があることで当時の面影を辿ることができます。

西淀川の今も昔も
見てきたミサゴ。
西淀川がどのように
変わってきたのか？
どんな問題を
抱えているのか？
それを解決できたのか？
ミサゴのように、
時には俯瞰して、
時には水面近くから、
西淀川の昔と今を
捉えます。

私は自宅のある佃地域から、あおぞら財団まで向かうのに神崎川を渡る必要があります。神崎大橋を渡って通勤しています。神崎大橋は風が強いことが多く、前髪が飛ばされてしまうことから、あまり良い印象を持っていません。ですが、もし神崎大橋が無くなったなら、私は佃から出るのが難しくなり、どこにも行けなくなります。そう考えてみると、橋は生活に無くてはならないものだなと思います。そこで今回は西淀川区の橋に着目し、ご紹介したいと思います。

●西淀川の川と橋

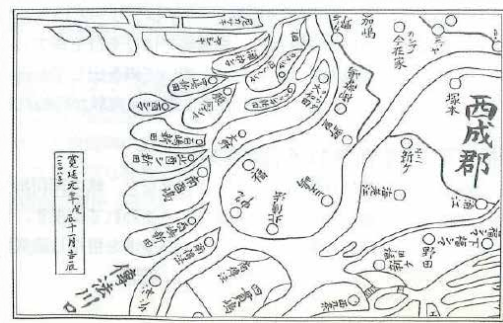
西淀川区近辺には現在5つの川が流れています。北から順に左門殿川、神崎川、中島川、西島川、そして淀川です（資料1参照）。西淀川区内に橋が20程度あり、西淀川をつなぐ役割を担っています。



資料1 西淀川区を流れる川

●西淀川区の起源は 海面下から

西淀川は、起源を辿ると海面下から始まります。河川から流れる土砂の堆積により時間の流



資料2 寛延元年(1624年)の西淀川区周辺の地図(「史跡めぐり」より)

●千北橋

はじめにあおぞら財団に来るようになって記憶に残っている橋を紹介いたします。神崎川に架かる橋で、佃地域にある「千北橋」です。あおぞら財団の研修でフィールドワークをし、その中で千北橋から神崎川を眺める機会があり、川の水位を確認しました。橋から住宅地と神崎川を見比べると、住宅地の方が少し低い位置にあります。なのでこの橋からの風景で、西淀川区に海拔ゼロメートル地域が多いことが分かります。地域の地理的な特徴を発見することが出来る橋です。



千北橋からの風景



石碑:櫛の橋 野里の渡し跡

●今はない中津川・大野川の 記憶を辿れる橋

野里地域の一角に「櫛の橋野里の渡し跡」という碑があります。ここはかつて中津川の渡し場でした。いまの野里1丁目商店街が中津川の右岸にあたります。野里の渡しは江戸時代、大坂市中から尼崎方面に向かう脇道にあり、尼崎に至る近道として重要な渡しだったそうです。明治初め頃に交通量増加に伴い、渡し場のあとに橋が架けられました。それが櫛の橋です。この橋は中津川が淀川の開削により埋め立てられるまであったそうです。

今はない大野川の面影が見られるスポットがあります。あおぞら財団からすぐの場所にある「歌島橋」です。大野川緑陰道路から歌島橋を見ると、かつ

ての面影を感じることが出来ます。改めて大野川緑陰道路から歌島橋を通ってみると、橋の下をくぐり抜けることが出来るのは不思議だなと思いました。

おまけ ●出来島水門

神崎川から西島川へと分かれる分岐点には「出来島水門」と呼ばれる水門があります。水門としての機能はもちろん、対岸へ行くための橋としての役割も兼ねて、生活用通路として活用されています。ちなみにこの水門は歩いて渡れます。

今回ご紹介できた橋は、3つだけです。が、その歴史を辿ってみるだけでも色々なことを知ることができ、橋は奥が深いんだなあと感じました。景色を眺めてみ



大野川緑陰道路からみる歌島橋



歌島橋 後ろにあおぞら財団

たり、名前の由来を調べてみたり、別の角度で見たりと様々な楽しみ方が出来るように思います。普段利用している橋について、通り道としてではなく、一度立ち止まってみるのも面白いかもしれません。

また私の卒業・就職に伴い、連載「ミサゴの思い」は今回で最後になります。この連載は、地元・西淀川を知るための良い機会となりました。みなさん、読んでいただきありがとうございます。

参考文献・写真の出典

『西淀川区史』西淀川区制七十周年記念事業実行委員会(1996年)
『区民発!!にしよどがわガイドブック2008』大阪市西淀川区役所(2008年)
『史跡めぐり 区民ハイキング』西淀川区制70周年記念事業実行委員会・西淀川区体育厚生協会(1996年)

Reporter

東 里 紗

西淀川在住/奈良県立大学地域創造学部地域創造学科4年/高校生の時に自分が暮らす西淀川を「公害のまち」と決めつけ、よく知ろうとしました。大学進学後、あおぞら財団のアルバイトとして、改めて西淀川の事を学んでいます。

あおぞら広場

ありがとうございます

(2021年9月～2022年2月 敬称略・順不同)

●お助け ボランティア

藤井 めぐみ
渡辺 哲敬
許 俊卿

●寄附・寄贈者

吉田 巖 大野 智彦
切刀 恵美子 藤本 典昭
酒井 健一 安藤 聡彦
八丸 久美子 林 美帆
湯本 浩之 丹野 春香
古賀 崇 廣瀬 平四郎
Y 小田 康徳
山崎スチール株式会社 山崎 義郷
浅井 真二 日本環境会議
あいざわ その他匿名1名

緑道散歩



大野川緑陰道路をちょこちょこと跳ねる何かがいると思ってよく見たら、そこにはツグミが！ 冬鳥で日本ではさえずりをしないため、口をつぐんでいる、それでツグミと呼ばれるようになったそうです。(2022.2.26)

スタッフツイッター 編集後記



環境白書に、福井県産の六条大麦を使った麦ストローが紹介されていました。福井県は六条大麦の生産量が日本で約30%のシェアを占めていますが、麦茶加工のために実の部分しか使われず、茎の部分は廃棄されていたそうです。福井は私の出身地。帰省する際には、購入したいと思います。

りべら No.158 2022年4月号(年3回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:谷内 久美子

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)バード・デザイン/ハウス

会員の購読料は会費に含まれています。

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



あおぞら財団
Facebookページ
「いいね!」を
押してくださいね。



スタッフから一言

世の中には色々綺麗な空がある。例えば京都氷色の夜明け空、サンフランシスコの力強いサンシャイン空、四川の情熱夕焼け空等々がある。私は指導教員の推薦であおぞら財団でインターンし始めた。活動や業務に参加させて頂き、私は色々な青空を見た。大地を包む青空だけでなく、人々の心にも綺麗な青空があると思う。



おうしじょう
王子常
(あおぞら財団学生アルバイト・
龍谷大学大学院)

それぞれ違う青空の独特な美しさを探し出し、お互いに知ってもらい、より良い青空を作ること为目标として行動しているのは、まさにこのあおぞら財団だと思う。ここで働いて、たくさんの人・団体と出会う、交流して、「思いやり」や「ほかの視点で問題を見る」などのスキルが身に付き始めたのは確かにありがたい。微笑みながら「ありがとう」と人に感謝された時は何よりと思う。自分を磨くために、他人をもっと幸せと感じさせるために、より綺麗な青空を作るために、これからもあおぞら財団で一生懸命頑張る!

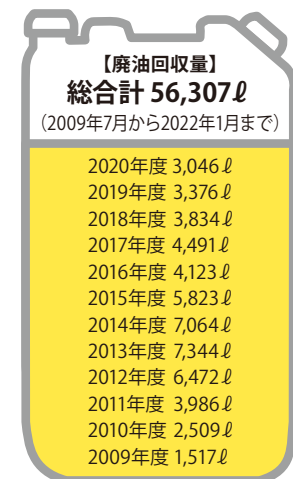
「りべら」に広告を掲載しませんか?

年3回発行の「りべら」は、あおぞら財団会員様をはじめ、西淀川の公共施設・店舗など、様々なスポットに配布しています。あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からの広告の掲載を募集中です。

【りべら広告掲載費】

中面1/9頁: 1万円/回、中面1/3頁: 3万円/回、中面 全面: 9万円/回
※お問合せ先:あおぞら財団まで TEL06-6475-8885

西淀川菜の花プロジェクト ～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外約50箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。

エコでつながる
西淀川推進協議会
事務局:浜田化学株式会社
06-6409-1555

広告

ディサービスセンター

あおぞら苑

あおぞら御膳

あおぞらの湯

【お問い合わせ】
TEL: 06-6475-0111 FAX: 06-6475-0114
URL: http://aozoraen.com/
運営: 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日25人

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

●● Hamada Kagaku ●● 広告

廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください

廃食油
リサイクル

使い終わった廃食油

食品残渣
リサイクル

加工中に発生した食品残渣

廃棄物
リサイクル

その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。 浜田化学 コンシェルジュ 検索

浜田化学株式会社 ☎ 06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>

広告

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中!

～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

・西淀病院
・のざと診療所
・千北診療所

・ファミリークリニックあい
・姫島診療所
・ファミリークリニックなごみ

・介護老人保健施設よどの里
・在宅総合センターらくらく
・社会医学研究所

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」
認証施設

看護師
募集中!

公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp